

平成 30 年 6 月 14 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02333

研究課題名(和文) African American Global Imaginary

研究課題名(英文) African American Global Imaginary

研究代表者

竹谷 悦子 (TAKETANI, Etsuko)

筑波大学・人文社会系・教授

研究者番号：60245933

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アフリカ系アメリカ文学に起きた時空間パラダイムシフトを検証するものである。十六世紀以降、標準的な地図投影法となるメルカトル図法は一九四〇年代アメリカでその伝統的なナラティブの力を急速に失う。それに取って代わったのが、北極点を中心に置いた正距方位図法によるリチャード・エデス・ハリソンの「ひとつの世界、ひとつの戦争」に代表される新しい地球の姿である。本研究は、この変容する時空間--「航空時代のグローバリズム」--を移動した先駆的なグローブ・トロッターであるウォルター・ホワイトとイーディス・ Sampson による航空旅行を分析し、「ブラック・グローバル・イマジナリー」の形成を解明した。

研究成果の概要(英文)：This project proposes to revisit a spatial paradigm shift that occurred in the 1940s United States, which imagined a break with the long-accepted Mercator projection—a shift that, I suggest, had a significant bearing on the African American planetary imaginary. Mercator's map rapidly lost its narrative power during World War II. Instead, an innovative cartography adopting an aerial perspective popularized by Richard Edes Harrison's "One World, One War" map, drawn in an azimuthal projection centered on the North Pole represented the United States' fresh world outlook. It ushered in what Alan K. Henrikson has termed "air-age globalism." By examining the air travels of Walter White and Edith Sampson, who navigated this changing spatial context, this project examines what I term "the black global imaginary."

研究分野：米文学

キーワード：African Americans Air-Age Globalism Walter White Edith Sampson

1. 研究開始当初の背景

本研究は、一九四〇年代に起きた時空間パラダイムシフトにより、アフリカ系アメリカ文学の地理的理想力に加えられた変更を考察するものである。

三次元の球体を二次元の平面に表現する地図、とりわけ、十六世紀以降、標準的な地図投影法となる大西洋を中心としたメルカトル図法による世界地図は、今日に至るまで文学研究者の世界観に驚異的な弾力性をもって影響を与え続けてきた。近年ポール・ギルロイによって提唱された「黒い大西洋」(The Black Atlantic)は中間航路(奴隷貿易の大西洋航路)を航行する「船」のイメージを「クロノトープ(時空間)」として援用した批評の準拠であるが、これを支える装置は、メルカトルの時空間であり、メルカトル図法によりコード化された、二つの半球、及び大陸/海洋から構成される近代の世界観に依拠しかつ同時に抗いながら理論化されたものであることは留意されてしかるべきである。

メルカトル投影法は、しかしながら、一九四〇年代アメリカで、その伝統的なナラティブの力を急速に失っている。それに取って代わって現れたのが、リチャード・エデス・ハリソンの「ひとつの世界、ひとつの戦争」(One World, One War)に代表される新しい地球の姿である。正距方位図法(地図の中心からの距離と方位が正しく表され、地球全体が真円で表される投影法)による「ひとつの世界、ひとつの戦争」は、北極点を中心に置くことで、経線が等角度で放射する直線、緯線が等間隔の同心円として表されていた。ハリソンの地図は、中心点から世界各地への最短距離(大圏航路)と方位の表象からなる時空間であり、それゆえに海図ではなく、航空図に適していた。歴史家アラン・ヘンリクソンは、ハリソンの地図とともに台頭してきた時空間パラダイムを「航空時代のグローバリズム」(air-age globalism)と呼んでいる。

本研究は、「航空時代のグローバリズム」へのパラダイムシフトにより、アフリカ系アメリカ作家らの想像力が、メルカトルの平面・海洋世界から三次元の航空時代の座標系へと飛翔していったプロセスを検証するものである。

2. 研究の目的

本研究は、「航空時代のグローバリズム」がアフリカ系アメリカ文学の地平にもたらした新しい時空間認識と人種・国家をめぐる想像力の転回を、一次資料の収集ならびに文学作品の分析をとおして解明し、最終的に英文の研究書としてまとめることを目的とする。

本研究期間においては、研究書を構成する章のうち、ウォルター・ホワイトとイーディス・ Sampson を扱う第一章と第二章―“The Archipelagic Black Global Imaginary: Walter White’s Pacific Island Hopping” (Chapter 1) と “Edith Sampson, Paul Robeson, and the Cold War in Asia” (Chapter 2) ―の草稿を完成する。

ウォルター・ホワイト(Walter White)は、文学史においては、小説家としてよりも、「全米黒人地位向上協会」(NAACP)の公民権運動指導者として考察されることが多い作家であるが、本研究では変容する惑星の時空間、「航空時代のグローバリズム」の座標系を移動した先駆的なグローブ・トロッターとして再評価を試みる。

イーディス・ Sampson は、従来、黒人初の米国国連使節に任命されたアフリカ系アメリカ女性として記憶されている。本研究では、一九四〇年代の航空時代を象徴する、航空機とラジオ電波を駆使した冷戦初期の文化外交の担い手として、 Sampson が三万三千マイルに及ぶ America’s Town Meeting of the Air (ATMA)の世界一周ツアーを行ったことに注目する。 Sampson の航空旅行を検証し、アフリカ系アメリカ女性の「航空時代のグローバリズム」をめぐる想像力を解明する。

3. 研究の方法

ウォルター・ホワイトは、市民の海外渡航が事実上禁止されていた第二次大戦中、二度にわたり、従軍記者として航空旅行を敢行している。本研究では、それらの経験から生み出された、ヨーロッパ・北アフリカ戦線における黒人部隊のルポルタージュ『風立ちぬ』(A Rising Wind, 1945年)ならびに新聞記事を一次テキストとして分析した。

本研究では、とりわけ太平洋戦線におけるホワイトの足取りを解明するために、アメリカ議会図書館所蔵の Records of the National Association for the Advancement of Colored People とイェール大学パイネック図書館所蔵の Walter Francis White and Poppy Cannon White Papers の資料を詳細に分析した。また、太平洋戦線でホワイトが執筆した新聞記事、ならびに軍の検閲や禁止により未出版のままの残されていた手稿を収集し、従来不明であったホワイトの太平洋戦争にかかわる作品群の全容の解明を行った。

一方、ホワイトとは対照的に、その文学的活躍については研究が進んでいないイーディス・ Sampson については、アーカイブの渉猟から作業を開始した。 Sampson が参加した America’s Town Meeting of the Air (ATMA)

の世界ツアーの軌跡を辿るためにニューヨーク市立図書館所蔵の Town Hall, Inc., Records の資料を調査した。

また Sampson は、このツアーの成功で、アメリカ黒人の「声」を代弁する女性として、ハリー・トルーマン大統領により黒人初の米国国連使節に任命されている。冷戦期の彼女の国連でのミッションを解明するために、ハーバード大学シュレシンジャー図書館所蔵 Edith Sampson Papers の資料を丹念に読み解いた。

4. 研究成果

本研究期間の初年度には、ウォルター・ホワイトを取り上げ、「黒い大西洋」から「航空時代のグローバリズム」(Air-Age Globalism)への移行期に、どのように新しい地理的想像力の物語を生成していったかを明らかにした。本研究では、ホワイトが切り開いた太平洋をめぐる航空時代の地理的想像力を「島嶼ブラック・パシフィック」(The Archipelagic Black Pacific)と名付けて、ホワイトが従来の半球思考や「黒い大西洋」とは異質な空間認識を形成していったプロセスを解明した。成果を論文“The Archipelagic Black Global Imaginary: Walter White’s Pacific Island Hopping”にまとめた。この論文は審査を経て、*Archipelagic American Studies*(デューク大学出版局)に収録され、2017年に出版された。

本研究の二年目には、イーディス・ Sampson による 1949 年のインドでの America’s Town Meeting of the Air のラジオ・スピーチ、ならびに翌年の国連でのスピーチを分析した。国連で彼女に与えられた課題は、シベリアに抑留された日本兵や民間人の捕虜問題を取り上げ、ソ連を追及することであった。本研究では、Sampson のスピーチを米ソの対立の枠組みに回収せず、黒人女性による隷属と自由をめぐるグローバルな想像力のダイナミズムの問題として、読み直した。

最終年度には、研究書の 3 章に予定しているジョセフィン・ベーカーの研究に着手した。

アメリカの黒人パフォーミング・アーティストで作家でもあるジョセフィン・ベーカーの自伝や彼女が執筆した児童文学、書簡等を分析した。そして、航空時代の想像力がどのようにベーカーの「虹の部族」という国際養子縁組プロジェクト形成に影響を与えたかについての検証を開始した。成果の一部をアメリカ学会で発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文](計3件)

1) Etsuko Taketani: Review of *Strange Fruits of the Black Pacific* (New York: New York University Press, 2017), by Vince Schleitwiler, *Journal of American History* 104, no. 4 (March 2018): 1045–46.

2) Etsuko Taketani: Review of *The Intimacies of Four Continents* (Durham: Duke University Press, 2015), by Lisa Lowe, *Journal of American History* 103, no. 3 (December 2016): 722–24.

3) 竹谷悦子: 「アフリカ系アメリカ文学の地理的想像力—モンロー・ドクトリンの終焉」、『アメリカ研究』、第 49 号(2015 年 3 月)、99–117 頁。査読あり

[学会発表](計4件)

1) Etsuko TAKETANI: “Black Female Geographies of Aero Mobility: Josephine Baker’s Airy-Fairy Globe Theater,” JAAS-ASAK Roundtable: “The Theater and the Theatrical: Reconsidering American ‘Drama’ in the Age of Trump,” アメリカ学会 第 5 1 回年次大会 早稲田大学, 2017 年 6 月 3 日

2) Etsuko Taketani: ”The Archipelagic Black Pacific: African American Island Hopping and World War II.” Pacifisms: Workshop, 立教大学, 2016 年 12 月 10 日

3) 竹谷悦子: 「航空時代の島嶼—アフリカ系アメリカ文学の地理的想像力—」「アメリカ型グローバリズムと島嶼地域の社会的・文化的変容に関する研究」研究会, 琉球大学, 2016 年 11 月 28 日

[図書](計3件)

1) Etsuko Taketani: *Archipelagic American Studies*, ed. Brian Russell Roberts and Michelle Ann Stephens (Duke University Press, 2017), 496pp. (chap. 4 “The Archipelagic Black Global Imaginary: Walter White’s Pacific Island Hopping,” pp. 113–32 を分担執筆)

2) 竹谷悦子: 江藤秀一編『帝国と文化—シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで』, 春風舎, 2016 年, 510 頁(第 2 章「スウィングする帝国—ブラック・パシフィックと第二次大戦前夜の『ミカド』」, 59–80 頁を分担執筆)

3) 竹谷悦子: 下河辺美知子編『モンロー・ドクトリンの半球分割—トランスナショナル時代の地政学』, 彩流社, 2016 年, 303 頁(第 7 章「航空時代とアフリカ系アメリカ文学の

惑星「ウォルター・ホワイトのアイランド・ホッピング」, 195-218 頁を分担執筆)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

竹谷 悦子 (TAKETANI, Etsuko)
筑波大学・人文社会系・教授
研究者番号: 60245933